

(一般情報)

露地びわにおけるドローンを用いた薬剤散布現地検討会の開催

～急傾斜地でも対応可能な機体の実証～

安房農業事務所改良普及課 令和6年5月21日発

びわは急傾斜地に植栽されていることから、地上からの薬剤散布が難しいほ場が多くあります。しかし、数年に一度、果樹カメムシ類が多発生し重大な被害を及ぼすため、農業事務所ではドローンによる防除技術の実証に取り組んできました。

今年は、急傾斜地でも散布が可能で、事前に測量を行うことで自動運転による薬剤散布が可能な機体を用いて、5月8日に現地検討会を開催しました。当日は、生産者及び関係機関合わせて40名の参加がありました。薬剤の調整から作業をスタートし、設定された飛行ルートから約3mの上空を上下させ、自動運転による散布の実演を行いました。約10aのほ場への散布が、離陸から着陸まで約4分で終了しました。

今回の機体を用いれば、防除が難しいほ場でも短時間で薬剤散布が可能となるため、農業事務所では今後産地での普及を図り果樹カメムシ類の被害低減を目指します。



機体の説明の様子



実際の散布風景